名大の時間 589

私の存在証明

私にとって、軽音というものは生活上切り離すことのできないものです。バンドに魅せられ、憧れを抱き、中学2年生の時にベースを購入したあの日から、私の生活に軽音・バンドはなくてはならないものになりました。

高校生から本格的にバンド活動を始め、大学でも軽音サークルに入り、ありがたいことに名寄市内外でライブ企画に誘っていただけることも増えてきました。

昨年度は、名大軽音サークルでサークル長も務めさせていただき、各所イベントやライブハウス運営に携わっている市民の方々には今でも身近なところで大変お世話になっております。現在も軽音サークルの副サークル長としてサークル全体の活動を陰ながら支えつつ、学業と両立しながらバンド活動を続けています。

7月19、20日に行われた名大祭では軽音サークルとして2日間ステージ発表をさせていただきました。同級生や後輩たちの楽しそうな姿を垣間見ることができ、自分も演者として心残りのないライブをさせていただき、最後の学祭を悔いなく終わることが出来たと思っています。

なぜこんなにも軽音が好きで、バンドが好きで、ライブが好きで、活動を続けていられるのか、今でも疑問に思うことがあります。そんな疑問を抱えながら名寄に来て、分かったことが1つありました。

それは、軽音サークルの先輩方、名寄でバンド活動をされている大人の方々が私の目の前でずっとかっこいい背中を魅せ続けてくれていて、その姿に感化され、鼓舞され、憧れて…そんな不純とも思える動機が私のバンド活動を後押しし続けていることです。

何歳になってもステージの上に立って、ひとたびバンドマンになれば、きらきらした少年少女のような顔でライブをしている姿は本当に素敵で、綺麗で、目を奪われます。自分もバンドをしているはずなのに、見ると毎回「ああいいな、バンドしたいな」と思わせられます。

きっと私はどんなに忙しくなっても、お母さんになっても、おばあちゃんになっても、死ぬまでバンドを、軽音を続けます。これが私の存在証明だから、とでも言っておきましょう。

社会保育学科4年
川村千尋